

波打つ道越え各地を激励の訪問

も残っていた。仙台市から盛岡市に向かう途中では、東北自動車道で自衛隊の災害派遣車両の横転事故に遭遇したり、高速道路に隣接した場所で火が発生し、一般道の走行を余儀なくされるアクシデントもあったが、無事に東北3県の各建設業協会に支援物資と義援金を届けることができた。

緊急事態。できる限りの支援続ける

距離にして約570kmの行程を終え、山本専務理事は「内陸部の被害は少なかったが、福島県沿岸部では、



当協会の糸川哲雄事務局長が関東近県の被災地域の建設業協会を訪問し、義援金を手渡した。左から栃木、千葉、茨城の各建協

福島第1原発事故の影響によって行方不明者の捜索もままならない地域があり、残されたご家族にとっては切実な問題だ。宮城、岩手各県の沿岸部のがれき撤去も、その役割分担を含めて行政機関は対応を急ぐ必要がある」と振り返った。「緊急事態なので、地元建設業者を束ねている各建協を有効に活用して対応すべき。当協会も引き続き、できる限りの支援を行ってみたい」としている。

当協会と東京土木施工管理技士会は3月29日から31日まで、栃木、千葉、茨城の各建協にも直接訪問し、義援金を寄贈した。全国建設業協会を通じた義援金も含めて、その総額は東建が1000万円、技士会が100万円となっている。

東日本大震災の発生に伴う 国土交通省関東地方整備局との災害協定に基づく 救援物資調達実績

【支援物資（1協会あたり）】

・米	100kg
・灯油（18ℓ缶）	5缶（90ℓ）
・トイレトーパー	60ロール
・軍手	100セット
・サージカルマスク（50枚入り）	100箱（5,000枚）
・使い捨てカイロ（10枚入り）	50個（500個）
・食品用ラップ（30㌢×20㌢）	100本
・下着（上・半袖）M	1箱（100枚）
・下着（上・半袖）L	1箱（100枚）
・下着（下）M	1箱（240枚）
・下着（下）L	1箱（200枚）
・単一乾電池（12×12パック入り）	福島建協 1箱+68個（212個） 宮城建協 1箱（144個） 岩手建協 1箱（144個）
・水（500ml×24本入り）	4ケース（96本）※福島建協のみ

※福島建協：13品目／宮城建協：12品目／岩手建協：12品目

【義援金（1協会あたり）】

・東京建設業協会200万円／東京土木施工管理技士会20万円

※参考

- ・栃木建協（3月29日：糸川・恩田 持参）東建100万円／技士会10万円
- ・千葉建協（3月30日：糸川・市川 持参）東建100万円／技士会10万円
- ・茨城建協（3月31日：糸川・佐藤 持参）東建100万円／技士会20万円
- ・全建（3月振込み）東建100万円（1口50万円×2口）
→ 義援金総額 東 建：1000万円
技士会：100万円

要請日	品目	搬入数量と搬入先
H23.3.14	ブルーシート (3.6m×5.4m)	2,550枚 常陸河川国道事務所
H23.3.16	土のう (480mm×620mm)	13,300袋 常陸河川国道事務所 5,000袋 利根川下流河川事務所
H23.3.19	ブルーシート (3.6m×5.4m)	500枚 利根川下流河川事務所
H23.4.4	土のう (480mm×620mm) 1t土のう(tバック) (φ1.1m×H1.1m) ブルーシート (3.6m×5.4m)	7,450袋 関東技術事務所 1,000袋 利根川下流河川事務所 6,450袋 5,400袋 渡良瀬川下流河川事務所 600袋 京浜河川事務所 200袋 常陸河川国道事務所 1,000袋 利根川上流河川事務所 410袋 利根川下流河川事務所 1,200袋 霞ヶ浦河川事務所 450袋 江戸川河川事務所 1,540袋 4,100枚 荒川上流河川事務所 200枚 江戸川河川事務所 400枚 京浜河川事務所 200枚 横浜国道事務所 300枚 常陸河川国道事務所 1,000枚 利根川上流河川事務所 305枚 利根川下流河川事務所 340枚 霞ヶ浦河川事務所 1,355枚

【品別救援物資調達実績】

品目	ブルーシート	土のう	1t土のう
合計	7,150枚	25,750袋	5,400袋